

萩の台地区グリーンスローモビリティ導入検証支援業務 特記仕様書

1. 委託業務名

萩の台地区グリーンスローモビリティ導入検証支援業務

2. 業務の目的

住宅開発から約40年が経過、高齢化率50%を超え、オールドニュータウン化が進む当該地区において、地域住民の日常生活に必要な、買い物や通院の移動手段確保のため、萩の台住宅地のラストワンマイルとして、グリーンスローモビリティ(以下、グリスロ)の実証運行を実施するとともに、既存コミュニティバスたけまる号萩の台線(以下、たけまる号)との比較を踏まえ、当該地域に適応する移動手段を検証する。

グリスロの実証運行にあたり、高齢者等地域住民の駅や商業施設までの移動手段の確保に留まらず、当該地域で現在進められている様々なまちづくりと連携を図り、グリスロでまちづくりを「つなぐ」ことで、相乗効果により各事業の効果を増大・発展させ、地域活力の一層の増進を図り、持続可能な次世代の住宅地づくりを推進する。

坂道が多く、空き家率や高齢化率が高い「萩の台住宅地」での事業をモデル実証と位置づけ、横展開を想定に入れた運行モデルを構築することで、今後、「住宅都市 生駒市」に多く存する他のオールドニュータウンへの横展開を図る。

3. 業務の対象地域

生駒市 萩の台1～5丁目 地内

4. 業務期間

契約締結日から令和7年2月14日まで

※ 本業務は、国土交通省 令和6年度共創・Maas 実証プロジェクト(協創モデル実証運行事業)の補助金を活用して実施予定であり、国への完了実績報告が令和7年2月28日までに必要であるため留意すること。

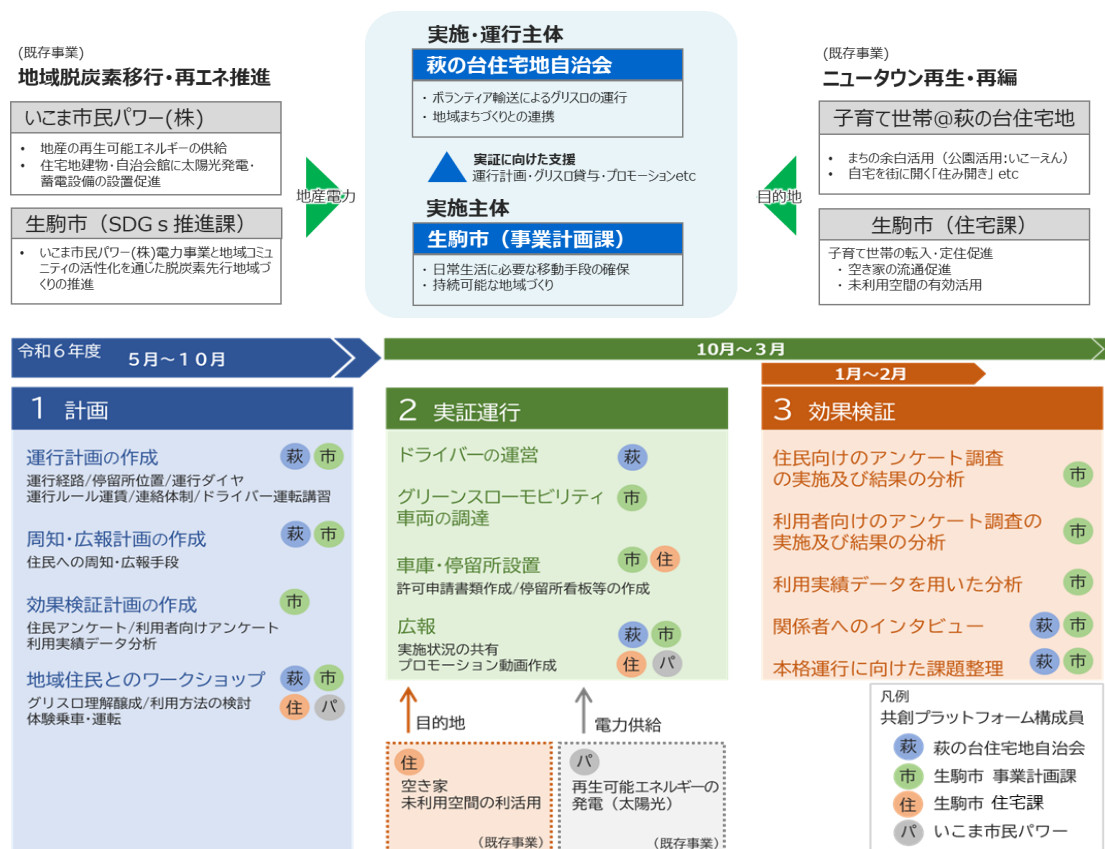
5. 事業内容(想定)

活発な地域活動を展開している「萩の台住宅地自治会」がグリスコ運行の主体を担うとともに、本事業に加え、当該地域で進行している各事業の中心となり、オールドニュータウン化が進む地域の再編を推進する。市からは車両を貸し出すとともに、運行計画の作成及び実証運行の準備や周知等、自治会と連携して事業を進める。

グリスコを動かす電力は、地域内で発電する再生可能エネルギーを用いることで、二酸化炭素排出実質ゼロの運行を確立する。さらには、地域の生活拠点である、萩の台駅や自治会館、近隣商業施設等に加え、ニュータウン再生・再編事業において創出される、空き家・未利用空間を活用した、地域内の「新たな集いの場」をグリスコできめ細やかに「つなぐ」ことで、地域全体の活力創出を図るとともに、次世代に継承できる持続可能な地域を形成していく。

また、現在、地域の生活を支えているたけまる号との比較検証を行い、地域特性に適応する最適な移動手段の導入を図る。

[事業イメージ]



※ 上記の内容は、令和6年4月時点での想定であり、本内容を踏まえながら、事業内容の一層の改善を図ることを妨げるものではありません。

6. 業務内容

本仕様書「2.業務の目的」「5.事業内容(想定)」を踏まえ、下記の各業務を実施する。業務の実施においては、今後の当該地域や本市のまちづくりを担うプレイヤーの育成や、関係者の増加を想定し、当該地域の関係者や、市内の人材などが積極的に関わることができる事業となるよう最善を尽くすこととする。

なお、下記に示す各業務内容を踏まえながら、事業内容の一層の改善を図り、柔軟に業務に取り組むこととする。

(1) 実施計画の作成

実証運行に向けて、運行経路や停留所位置、運行ダイヤ・ルール、事故や急病などの緊急時の対応、連絡体制の計画等、実走に必要となる実施計画を作成する。実施計画の作成においては、「6.共創プラットフォームの運営支援」における地域住民との会合等を踏まえた内容とする。なお、当該事業での運行形態は、「道路運送法における許可又は登録を要しない運送(※R6.3/1 国交省通達「道路運送法における許可又は登録を要しない運送に関するガイドライン Ⅲ-4.自治会等の活動として、会員向け運送サービスを行う場合(地域住民によるボランティア輸送)）」を想定しているため留意すること。

(2) 周知・広報

本業務の目的達成につながる効果的な周知・広報を行う。市全体への事前周知と、萩の台地区の住民への利用方法等の周知を行うことに加え、実証運行中は、実施状況の共有や利用を促進するために、ニューズレター等による広報活動を実施する。周知・広報に係る媒体の作成については、興味関心を引き付け、参加意欲が高まるデザインとなるよう工夫する。また、作成物については、原則、編集が可能なデータで作成することとする。

1) 実証運行実施前

- ・ 実証運行実施前に、利用方法等必要事項が記載された周知パンフレット(A4用紙8枚程度)を作成する。パンフレットは、萩の台地区の住民を中心に配布する。(1,300部)
- ・ 市全体に対し、事業内容や実証運行を周知するためのチラシ(A4用紙1枚)を作成する。チラシは、自治会への配布や、公共施設の広報コーナー等に配架する。(5,000部)

2) 実施中の広報活動

- ・ 実験実施中に、実施状況の共有や利用を促進するために、定期的にニューズレター((仮)萩の台ぐりすろ通信)を作成する。

- ・ ニュースレターは、開始1ヶ月後（11月配布）、開始3か月後（1月配布）、開始4ヶ月後（2月配布）の3回作成する。

（3）実証運行の実施支援

実施計画に基づき、実証運行の実施支援を行う。

1) グリスコ車両の調達

- ・ 車両は、下記要件を満たす、車両とする。
- ・ 1.車種 日本国内のメーカーが製造するグリスコで、新車であること。
- ・ 2.台数 1台
- ・ 3.色 指定しない
- ・ 4.仕様
- ・ 【項目規格・条件】
- ・ (1)車体計上 小型
- ・ (3)計上 全長 3,900mm～4,000mm
- ・ (4)乗車定員 7人乗り
- ・ (5)走行速度 0～19km/h
- ・ (6)附属装備品(標準装備でない場合はオプションで対応も可。同等の機能で可。)
- ・ 5.費用 車両価格には、車両費用、諸手続き費用を含むこと。
- ・ 6.その他 車両故障等の際に迅速な対応が必要なため、近隣にメンテナンス対応拠点及び部品供給拠点を有すること。

※車両購入費については、設計価格に含んでいる。

2) その他支援

- ・ 停留所設置準備5か所程度(許可申請書類作成支援、停留所看板等の作成支援)
- ・ 関係者協議の支援

（4）効果検証の実施

実証運行の効果検証に向けて、アンケート調査等を実施し、調査結果を取りまとめる。なお、実証運行が始まるまでに、実証運行により得られる効果の仮説をたて、また、関係他部署(住宅政策室等)への意見照会等を行い、検証方法の企画・検討を行う。

1) 住民 アンケート調査

- ・ 萩の台1～5丁目の住民を対象に、グリスコの利用状況や地域の変化状況、今後の運行継続の意向等に関する住民アンケート調査を実施する。

- ・ 調査は、実証運行開始2か月後を目途に令和6年 11月頃の実施を予定する。
 ※ [配布及び回収] 11月 [データ入力・集計] 12月 [分析・考察] 1月
- ・ [調査票の作成] A3 両面 1 枚二つ折り程度
- ・ [調査票等の印刷] 1,300 部(萩の台 1~5 丁目の世帯数約 1,250 世帯)
- ・ [調査の実施] 発送は自治会経由で実施し、回収は郵送回収とする

2) 利用者 アンケート調査

- ・ グリスロの実際の利用者を対象に、利用状況や行動や生活の変化状況等に関する利用者アンケート調査を実施する。
- ・ 調査は、実証運行期間中に 2 回実施する。1 回目は秋の地域のイベントとグリスロのイベントを合同で実施する時。2 回目は利用が定着してきた令和7年 1 月後半を予定する。
 ※ 1 回目) [配布及び回収] 11 月頃 [データ入力・集計] 11 月 [分析・考察] 12 月
 ※ 2 回目) [配布及び回収] 1 月頃 [データ入力・集計] 1 月 [分析・考察] 1 月
- ・ [調査票の作成] A4 用紙両面 1 枚分程度
- ・ [利用者アンケート調査票等の印刷] 1,000 部/回として、合計で 2,000 部
- ・ [利用者アンケート調査の実施] 発送及び回収は、ドライバー経由で実施
 ※ 受け取った調査票は、車内ではなく、自宅等で記入いただき、次回利用時にドライバーへ手渡ししていただく。もしくは、自治会館に回収ボックスを設置する。

3) ドライバーや受付係など運行関係者へのグループインタビュー調査

- ・ グリスロのドライバーや受付係など、今回の運行に携わった関係者に対して、グループインタビュー調査を実施する。調査では、運行関係者から見た運行等の改善すべきポイントや、利用者に対して説明や案内等を改善すべきポイントなどを把握する。
- ・ 調査は、実験の中間時期(11月頃)と実験終了時期(1月頃)の 2 回とする。

4) 調査結果・利用実績データを用いた分析

- ・ グリスロの利用状況を、曜日、時間帯、天候、行き先、個人属性等から整理する。なお、利用状況の整理は、月報として整理し、共創プラットフォームの月例会議で毎回報告する。
- ・ 調査結果や利用実績データを用いて本事業の効果検証を実施する。
- ・ たけまる号の利用状況との比較等を行う。

(5) 本格運行に向けた課題の整理

社会実験の実施状況や、効果検証に係る各種分析結果などから、萩の台地区におけるグリスロの本格運行に向けての課題(共創プラットフォームの継続性、グリスロの事業性、ドライバー確

保問題への対応、たけまる号など既存公共交通との関係性等)を整理する。また、萩の台地区以外での横展開を進める際の課題を整理する。

(6) 共創プラットフォーム等の運営支援

持続可能な地域の移動手段の導入検証において、萩の台住宅地のまちづくりと連携し、相乗効果により地域活力の一層の増進していくため、多様な関係者が構成員となる共創プラットフォームを構築する。構成員の役割を明確にし、有機的な連携が図れるよう会議の運営支援を行う。

1) 共創プラットフォームの構築・運営支援

- ・ 共創プラットフォームの構築及び会議（コア会議）の運営支援を行う。本業務では、会議内容の企画や、必要な会議資料の作成、議事録の作成等の支援を行う。
- ・ 定例会議は、月例会議を標準とする（計10回程度）。

2) 地域住民等との会合などの開催支援

- ・ 社会実験を円滑に進めるために、地域住民向けの会合等（説明会、ワークショップ）を実証運行の実施前、実施直前、実施中に開催する。本業務では、その企画・運営等の支援を行う。

① 実施前

グリスロの運行内容などの社会実験の全体説明会を開催する。説明会では、具体的な運行方法や利用方法などを、ワークショップ形式により、地元が中心となって考えるスタイルとする。9月までに、萩の台住宅地自治会館等にて1回開催する。

② 実施直前

実証運行のプレイベントを兼ねて、開始1週間前頃を目途に、グリスロのお披露目、体験乗車、体験運転等を行う。また、グリスロの利用方法や予約方法などの説明も行うものとする。

③ 実施中

運行内容等の改善について、地元が中心となって考えるワークショップを開催する。開催は2ヶ月に1回とし、11月下旬と1月下旬とする。

④ 実証終了直前

実証運行結果の報告会を開催する。結果の報告と合わせ、今後の地域での本格導入に向けた機運醸成の機会とする。

7. 打合せ協議

初回、中間3回、最終の計5回。

8. 報告書とりまとめ

社会実験の実施状況や、各種調査結果、課題の整理結果等を取りまとめ、業務報告書を作成する。

- ・本業務に係る報告書、電子データ：一式
- ・関係資料(議事概要等)：一式

9. その他

本特記仕様書に定めのない事項や疑義が生じた場合は別途協議するものとする。